

平成25年度

# 女川町まちづくりワーキンググループ 最終報告会だより

## 平成 25 年度の活動実績報告会が行われました！

平成 26 年 3 月 26 日に、女川町まちづくりワーキンググループ報告会が開催されました。

これまで 4 つの検討チームに分かれて話し合ってきた内容の報告と、全体定例会で話し合ってきた女川魅力アップ戦略の内容についての報告が行われ、町長とまちづくり推進協議会会長より講評をいただきました。



開催日時：平成 26 年 3 月 26 日（水）18:30～20:30  
開催場所：女川町役場仮設庁舎 2階第2会議室  
参加者数：70 名（一般参加者、町職員参加者含む）

【内容】

- (1) 各検討チームの検討成果報告
- (2) 全体定例会の報告
- (3) 町長とまちづくり推進協議会会長の講評

### 各検討チームからの報告

※報告会の発表資料は町ホームページ「女川町復興計画ページ」内、『各種協議組織』→『女川町まちづくり協議会ワーキンググループ』にてご覧いただけます。また、プリント版は復興推進課窓口でもお渡しできます。

#### 《観光交流エリア検討チーム》

女川の魅力である穏やかな水辺を活かし「くどける水辺」「海・島・船・水とふれあえるまち」という2つのコンセプトを設定し、「町民が楽しみ、住みよいまちには、観光客も来なくなる」との考えの下、町民が楽しめる水辺空間の提案が行われました。

「くどける水辺」では、ライトアップによる海辺の演出やイベントなどが開催できる復興のシンボルの創出、駅から海岸まで誘導する仕掛けが提案されました。「海・島・船・水とふれあえるまち」では、釣りや漁業体験、バーベキューができる場所づくりや散歩したり子どもが遊べる交流機能が提案されました。

#### プロムナード～メモリアル公園の具体的提案

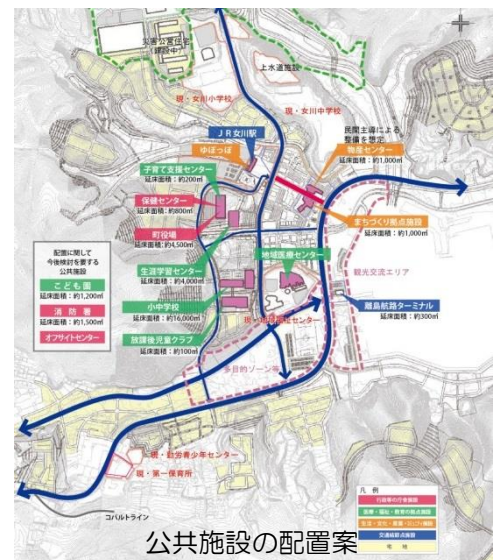


プロムナードの案

#### 《公共施設検討チーム》

町内の公共施設の配置について、安全性と地域の活性化への貢献度について分類した上で、各施設について議論してきました。プロムナード沿いのまちづくり拠点施設のあり方として、図書館や学習室の他、カフェ・レストラン、ミニ映画館など来訪者も立ち寄れる施設が必要との意見が出されました。

また、医療・保健・子育て関連施設の連携について、役場とのワンストップサービスの充実や、施設間の移動の負担を軽減するサービスの提供の必要性などが提案されました。



## 《教育環境検討チーム》

教育環境をめぐる検討課題を広く話し合った結果、「子どもの体力・スポーツの育成」、「子ども会・育成会の活動」は、地域で対応すべき課題という結論になったと報告がありました。

「子どもの体力・スポーツの育成」では、遊び場を増やす、スポーツ少年団などの情報発信をすることが挙げられ、「子ども会・育成会の活動」では、若い人の参加を促すことの重要性が提案されました。

また、地域で小中一貫校を支えるために、しっかりとした地域コミュニティが必要であり、新しい地域コミュニティを形成するために、実験的な取組をしてみることも必要との提案が行われました。

## 《運動公園検討チーム》

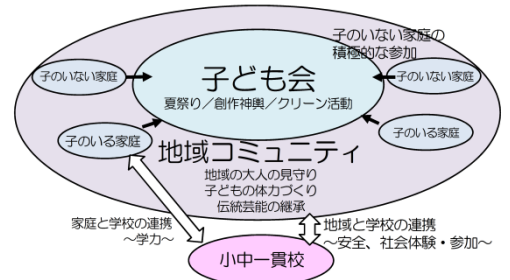
「女川町の自然環境を活かし、3世代で日常的に楽しめ、長く滞在できる公園」をコンセプトとして掲げ、清水地区を5つのゾーンに分けて導入する機能について提案が行われました。

特に上流部の多自然型川づくりについては、検討チームの提案を受け、実現に向けた協議・検討が進んでいます。

また、公園を魅力的にするための、住民主体の管理運営体制として、町民が得意分野を持ち寄り、サークルのように楽しみながら管理できる取り組みなどが提案されました。

## 地域ぐるみで子どもを育てていくために

■地域コミュニティがあってはじめて子ども支援・学校支援ができる



地域ぐるみで子どもを育てるためのイメージ

## 清水公園のゾーニングと方針

観水広場、キャンプ場、バーベキューゾーン  
(町民も来訪者も利用)

**バーベキュー・キャンプ場**  
 ・キャンプファイヤーができること  
 (火はバーベキューエリアだけで使う)  
 ・道員を道で出し出し、利用料を少額ずつ徴金し、管理費に充てる  
 ・エリアプロットのレイアウトをキャンプ場のパンフレットとして制作できないか  
 ・イベントが可能なステージが併設されていること

**観水空間づくり**  
 ・観水空間が豊かになること  
 ・現在のコンクリート護岸は観水性が悪く、生態系にも良くない。多自然型の川づくりをしたい  
 ・自然の川川としたが、水辺の環境が美しいので観水空間は思案だらう  
 ⇒水質を一定に保つためには河川には別に水を引き込み、クリークなどを設置すれば観水空間をつくれる  
 ・水量が一定ならホテルを建てられる  
 ・子どもが遊べる水遊びができること  
 ・町民が自給自足の川、という価値を持ち、車で遊んで持ち帰るものにしてほしい  
 ⇒河川の管理、観水が楽しめるような工夫が必要

**その他**  
 ・防犯面も考え、複数箇所の手押しボンプ井戸を設置すること  
 ・各ゾーンをつなぐような取組を整理する



上流部のゾーニング案

## 全体定例会の報告

毎月の全体定例会で、女川魅力アップ戦略について話し合った結果が報告されました。女川の魅力として「自然・歴史が豊かなまち」「魚がおいしいまち」「定住促進(子育て、起業支援)」の3つのテーマで話し合い、リアス式海岸を活かした景観のPR、漁業体験と食を連携させたPR、子育て・保育環境の充実度をPRするなど、女川町を対外的に発信するためのアイデアが報告されました。



## 平成26年度の予定

今年度のまちづくりワーキンググループでは、より具体的な議論を行うための『参画と意見反映の場』、誰でも気軽に参加できる『学びと実践の場』の2つの体制で5月下旬より開催予定です。詳しくは、本広報誌と一緒に全戸配布したチラシをご覧ください。

引き続き、女川町のまちづくりに、みなさまのご協力をお願いします。

ワーキンググループに参加したい方(町外からのオブザーバー参加含む)、復興まちづくりに対するご意見のある方は、下記までお問い合わせください。

女川町役場 復興推進課 復興調整係 TEL 0225-54-3131 (内線239)